

景気動向指数研究会 議事概要

1. 日時：平成 21 年 7 月 10 日（金）16：00～17：25

2. 場所：共用第 3 特別会議室（中央合同庁舎第 4 号館）

3. 出席者：

（委員）

吉川 洋座長、刈屋武昭委員、小峰隆夫委員、櫛 浩一委員、美添泰人委員

（事務局）

岩田一政経済社会総合研究所長、中藤 泉経済社会総合研究所次長、

私市 光生総括政策研究官、杉原 茂景気統計部長

4. 主要課題：

（1）最近の景気動向の動きについて

（2）基調判断の基準について

（3）景気動向指数の改善について

5. 議事進行：

開会

最近の景気動向の動きについて

事務局より、景気動向指数（平成 21 年 5 月分（速報））（資料 1）に基づき、最近の景気動向の動きについて説明があり、その後、意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・最近の景気動向指数の動きは、民間エコノミストの景気の見方、実感にあっているのではないかとの意見があった。

基調判断の基準について

事務局より、「『C I による景気の基調判断』の基準」の一部見直し（案）について（資料 2 - 1）及び「『C I による景気の基調判断』の基準」の改善について（資料 2 - 2）説明があり、その後、意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

「『C I による景気の基調判断』の基準」の一部見直し（案）については、

- ・前回の景気動向指数研究会の議論を踏まえたもので、基本的に良いとの評価を得た。

- ・景気循環の流れにそって基調判断が整理され、わかりやすくなった。「下げ止まり」の後にも「局面変化」を通過するという事かとの質問があり、事務局よりその通りとの説明があった。
- ・～の基調判断を必ず経るのかとの質問があり、事務局より急速に変化する場合などには、「足踏み」や「下げ止まり」を経ないこともあり得るが、「局面変化」は「拡張から後退」、「後退から拡張」に移行する際には必ず通過するという説明があった。
- ・C Iによる基調判断の基準を暫定的と注記することについて、正式な景気の山谷はヒストリカルD Iに基づいて設定されるのに対し、C Iという別の指標で測ったものに「暫定的」という表現を用いるのは適切ではないのではないかと指摘があった。
- ・毎月のC Iの基調判断の位置付けとヒストリカルD Iに基づく景気の山谷との関係を明確にすべきであり、毎月のC Iの基調判断は暫定である旨を表の上段部分に明示した方が良いとの指摘があった。

以上の意見を踏まえて、事務局において文言を整理した上で、資料2-1『C Iによる景気の基調判断』の基準の一部見直し(案)については、6月分速報から適用することが全員一致で決定された。

また、資料2-2『C Iによる景気の基調判断』の基準の改善については、景気のスピード感がわかるような基調判断の試作を作成したものの、すぐに実用出来るような結果は得られなかった旨の説明があり、

- ・景気のスピード感がわかるのも良いが、景気動向指数の数値の水準の意味がわかる方が課題ではないかと指摘があった。

さらに、基調判断の基準に関して、

- ・平均や標準偏差が変化することを前提として作成されたC Iに基づいて基調判断を行う際、過去約30年間のC Iの平均とその乖離から計算された標準偏差を用いることは整合性に欠けるとの指摘があり、事務局より、今後の検討課題とするとの説明があった。

景気動向指数の改善について

事務局より、景気動向指数の改善について(資料3-1)参考図表(資料3-2)に基づき、採用系列(生産部門の比率の多さ、外需の動きを捉える指標の導入、名目値と実質値の混在)や作成方法(外れ値処理の方法等)などに関する論点について、中間報告として、いくつかの試作結果を示し、すぐに変更するものではないが、今後の改善の検討の方向性についての説明があり、その後、意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・景気動向指数の改訂のタイミングについて質問があり、事務局より、原則的に今循環の谷の確定時を予定しているが、刈り込み手法や名目値系列の実質化など影響が小さいものについてはもう少し早めに改訂することも考えられる旨の説明があった。
- ・採用系列の改訂など、重要な論点は景気動向指数研究会で議論をする必要があるが、刈り込み手法やトレンドの扱い方など、技術的なことについては、景気動向指数研究会で議論するのではなく、事務局が適宜、委員に持ち回り形式で相談し、意見を伺いながら、検討を行っていく方が良いとの提案があり、了承された。

閉会

なお、本議事概要は速報版のため、事後修正の可能性あります。